

優秀賞

【「節水」で世界中を幸せに】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 二年 中里 菜寛

世界では、一日に二百二十万人の人が亡くなっている。この人たちは、不衛生な水を飲んで命を落としている。また、この水を飲まなければいけない人は世界で二十二億人もいる。その中で私が最も衝撃を受けたのは、この水のせいで五歳を迎える前に亡くなってしまいう子供の数が毎日七百人にも上ることだ。私たちの国では水が原因で五歳になる前になくなることとはほぼない。ではなぜ、このような問題が起きているのだろうか。

まず、衛生設備の不足による水質汚染についてインターネットで調べたところ、世界では水道やトイレ、下水道がない国が多くあり、生活排水がそのまま河川に流されて、安全な水が手に入らない地域があることが分かった。汚染された水を飲み、生活用水として使わざるを得ない人がいるのだ。一方、日本はどうだろうか。私は、小学四年生時に下水処理場に行ったことを思い出した。日本では、機械を使いゴミや砂を取り除いたり、微生物を活用したり、消毒したりしてきれいな水にしてから川に戻す。そのおかげで私たちは当たり前のように水を飲んだり、使用したりできている。また、安全な水を作るまでには沢山の技術と時間が必要であることを知り、世界の多くの国が、安全な水を手に入れたくても実現できない状況にあるのではないか。だから、私は水を当たり前に使用できることに感謝したいと強く感じた。

次に、水の使用量の増加について、インターネットのサイトで調べた。水の使用量が増加することで水不足や水質汚染が発生することが分かった。特に問題となるのは農業用水で、発展途上国では水が農業に使われ、生活用水や飲料水が不足していることも分かった。また、この問題は人口増加や人の集中によってさらに深刻化すると考えられている。そこで、この問題を改善する方法を考えなければいけない。この水問題を解決するために、私ができることは、節水だと思う。

私たちは一人当たり一日に三百リットル近くの水を使っていると言われている。これは世界の使用量に比べて約二倍の量になる。しかし、節水を実践するだけで、一人当たり一日二百リットル以下の水量で生活することができる。例えば、手や食器を洗うときに洗剤を減らすことで、洗い流すときの水の量を抑えることや、少ない量の水をつかうときでも出したままにしないことを心がけるだけで充分な節水になる。私たちの生活の中には節水できる場面が沢山あると思うので見つけて節水しながら生活していきたい。私一人が節水してもすぐに世界は変わらないと思う。しかし、私が水の大切さを発信し続けていけば変化が起これると思う。今、世界ではSDGsが注目されている。目標の六番目は、「安全な水とトイレを世界中に」である。すべての人が安全な水と衛生的な環境づくりの大切さを感じ、この目標を達成するために取り組みをしている人も増えている。これからもこの運動が広がるためには世界中の一人一人が節水を心がける必要がある。私もこの世界の一員として節水をし、限られた資源を大切にしていきたい。また、沢山の人が今回私が知った世界の水問題を知ってもらうために、ポスターなどを作成して水の大切さを広めていきたい。

近年日本ではゴミの不法投棄によって水質が悪化している。きれいな水を使用できるように努力している人がいるにも関わらず、自らその水を汚してしまう人がいる。そんな人がいなくなり水を大切にしてくれる人が増えてほしい。そのうえで節水などに取り組んでほしいと思う。そのためにまずは私が節水を心がけること、呼びかけていくことをしていきたいと思う。そして、この世界に水によって苦しむ人が一刻も早くいなくなつて欲しい。

優秀賞

【安全な水を世界中に】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 二年 田中 詩恵

少なくとも約二十億人。これは世界で安全に管理された水を飲むことができない人々の数である。日本に住む私たちの生活からは考えられないことだが、きれいで安全な水を飲むことができているのはほんの一部の国や地域の人々だけなのだ。

私が世界の水について考えるきっかけになったのは、先日SNSで見かけたある商品だった。それは、泥水などの安全に飲むことができない水に含まれている泥や雑菌などをフィルターでほぼ完全に除去できるもので、災害時や発展途上国など、安全な水を確保することが難しい地域で使用ができるというものだった。また、商品の売り上げによって、世界各国の学校に浄水器を設置する活動等も行っているということだ。私はこのことを知り、自分たちのように当たり前に安全な水を飲むことができない人々がいることを改めて認識し、世界の「水」の現状について調べてみたいと思った。

世界では汚水を利用することで発生した下痢やコレラなどの感染症によって年間五十万人もの子供が命を落としている。また、不足する水を確保するために、毎日往復何時間もかけて水を汲みに行き、そのために学校に行くことができない子供たちが数多くいるのだ。

現在、水道水をそのまま飲むことができるのは、日本を含めた十一ヶ国だけだとされているが、私には、蛇口をひねっても、きれいな水の出でこない生活というものが想像できない。先日、家の近くで火事があり、消火栓の使用により、家の水道の水が茶色く濁ってしまったことがあった。特に問題はないということだったが、そのときは、使ってもよいのか不安な気持ちになった。また、私たちが災害時などにきれいな水が飲めなかったり、水が不足したりすることはありうることだが、そんな状況が当たり前前に続いている人々がいることが信じられない。

この問題に対処するために世界中で様々な取り組みが行われている。国連では持続可能な開発目標の中で目標六「安全な水とトイレを世界中に」を掲げ、様々な活動を行っている。また、ユニセフは井戸水などの給水設備の建設や衛生を保つためトイレの設置などを行っている。その他にも数多くの団体や機関が世界の「水」の問題について深刻に向き合っている。

そしてこの問題は遠い世界で起きている問題ではないのだ。世界では不足した水をめぐり、すでに多くの争いが起きている。今後、世界の人口が増え続け、必要な水の量が多くなれば、水をめぐる対立や紛争はさらに増えていくだろう。そしていつの日か、日本でもそのような争いをする日が来るかもしれない。では、限りある資源である水を守るために私たちができることは何か？

まず、私たち一人一人が世界で起きているこの事実を知り、そして自分事としてしっかりと受け止めることが大切だ。これも最近知ったことだが、世界の二十億人の人々が実際に飲んでいる泥水をネットなどで販売しているのだという。私も写真で見たのだが、実際に目にしたことで今この世界で現実に行き起こっていることなのだという実感がわいた。そのうえで節水に取り組むのだ。「節水」といつても何も難しいことではない。シャワーや水道の水をこまめに止めたり、食器を洗う時に汚れをふき取ってから洗ったりする。それだけでも節水はできる。また、水資源を守るための寄付について調べてみるのも一つの方法だ。

私は、日本だけでなく「世界」にまで目を向け、貴重な水を守り、世界中の人々が安全な水を利用できるように、節水など自分にできることを続けていくことが大切であると改めて思った。安全できれいな水をいつまでも繋いでいけるように…

優秀賞

【水と共存】 栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 田所 楓子

私たち人間にとって、「水」は生きていくうえで欠かせないものだ。しかし、私は水についてあまりよく考えたことがない。「水」という言葉を聞いて私が一番最初に想像するのは、水道から出てくる飲み水だ。

水道水。学校や家、公園など、ありとあらゆる場所に設置されていて、いつでも使うことができる安全な水。この水はどのように作られているのか疑問に思い、調べてみることにした。

水道水は主にダム湖や河川の水などの地表水を原水としている。くみ上げられたダム湖や河川の水は、浄水処理場という場所に集められ、凝集剤を入れて浮遊物を沈ませた後に砂と砂利の層に通して微細な不純物を除去する。その後、ろ過した水に塩素を注入し、消毒することによって安全な水道水が出来上がるのだ。

このようにして作られる日本の水道水は、世界に誇れるレベルの安全でおいしい水だ。しかし、世界に目を向けると、様々な水資源に関する問題が起こっている。

一つ目は、世界の水道の普及率についてだ。世界の水道普及率は、平成二十九年時点で、平均約九十一パーセントである。この事実を良いと考える方もいるかもしれないが、私はもっと普及率を上げるべきだと考える。なぜなら、水は人にとってとても重要なものだからだ。しかも、水道水をそのまま飲める、という国は世界百九十五ヶ国のうち日本を含めてわずか十数ヶ国しかない。残りのほとんどの国は、水道水を浄化したり、沸騰したりしないと飲めず、そもそも水道自体がない、というところもあるのだ。この現状を、早く解決しなければならぬ。

二つ目は、世界の水不足問題だ。この問題は、SDGsでも対策が必要とされている。現在、世界人口の四十パーセント以上の人々が水

不足に悩まされており、今後とも上昇すると予測されている。この状況が続けば、二千五十年には世界人口のうち約半数が水不足にさらされ、四人に一人は水不足の影響を受けると予測されるほど、この問題は深刻化されているのだ。これによって、干ばつや伝染病などの被害が及んでいる。

水不足問題の原因は大きく三つある。一つ目は、水の使用量が増えていることだ。一人一人の使用量や工業・農業に利用される水の量が増加している。産業を発展させようとするほど、水の使用量は増えてしまうのだ。二つ目は、地球温暖化による気候変動が起こっていることだ。また、大雨や干ばつも関係している。温暖化が進むと降水パターンが激しく変化するため、季節や月ごとで見ると水不足に悩む地域が出てきやすくなるといわれている。三つ目は、森林伐採が進んでいることだ。これによって水を蓄積していた森も減少してしまっている。これらの問題を解決するには、私たちにもできることを考えて実践することが大切だ。そこで私が考えたのは、節水を心がけることだ。例えば、お風呂で残ったお湯を洗濯で使ったり、顔を洗うときに使う水の量を決めたりすれば、節水につながるのではないかと思う。そして、節水によって節約できたお金を、水道が満足に使えていない地域に寄付すれば、水道普及率が少しでも上がるのではないだろうか。世界の水問題について調べて気が付いたことがある。それは、日本に住んでいる私たちが水における環境にとっても恵まれているということだ。この環境に感謝し、今後、世界の水問題についても解決していきたい。

優秀賞

【命をつなぐ水】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年

児玉 結彩

「本当にこの水は飲むことができるのか」私は目を疑った。私が衝撃をうけた写真は、私よりも小さな子供達が泥水をバケツいっぱい運んでいる一枚だった。水を運ぶため学校にも行けず、毎日八時間も歩いてやつのことで手に入れた水で命を落とす可能性がある。本当に信じられなかった。

日本に生まれた私は、蛇口をひねるだけでとう明できれいな水を飲むことができる。蛇口をひねるだけで出てくる水に感謝することはなかったし、当たり前だと思っていた。しかし、当たり前ではなかった。

そのように考えていた時、SDGsが頭をよぎった。SDGsでは六番目に「安全な水とトイレを世界中に」という目標がかかげられている。泥水などを飲んでる地域は、アフリカ諸国が多い。私が写真で見た子もやはりエチオピアという国に住んでいる。その子は私と同じ十三歳だ。しかし、私の生活と全然違った。朝早くから夕方近くまで、炎天下の砂漠を一日中歩いて家族のために水をくむ。それでも手に入るのは、一人あたりわずか五リットル未満の泥水だ。私だったら、毎日毎日水をくむだけでしかも少ししかももらえないとなると生活から上げ出したくなる。泥水も飲みたくない。しかしそのような生活をしている子供達はどんなにいやだろうと生きるためには飲むしかないのだ。世界には、三人に一人が安全な水を使用することが出来ない。そこで家の近くに安心安全な井戸があれば水をくむことはなく、多くの人

が助かると思う。

日本のように安心安全な水を飲める国はとも少ない。世界約百九十六ヶ国中、きれいな水を飲むことの出来る国は十五ヶ国くらいだという。ほんの一部の人しかきれいな水を飲むことが出来ないこの現状に、私はとてもおどろいた。先ほど井戸があれば多くの人の命を助けることができる、と思っただけで、今の私には実現することは出来ない。

今の私に出来ることは何だろう。私は人を助けられるような技術はもっていないけど募金という形で助かる命があるかもしれない。しかし、私一人で募金をしていてもほんの一部の人しか助けられないと思う。だから、少しずつでもいいので多くの人がそのようなボランティア活動に参加してくれることを願っている。最近では、SDGsの目標に取り組み、トイレの設置などを心がけている会社が増えてきている。支援によって教育が受けられる子供達が増えてきている。子供達が笑顔で学習する姿を見て私もうれしくなった。また、水関係で活やくをする会社もあった。水をきれいにする浄化剤を開発したという。このおかげで水を安心して飲めたり、様々なことに水を使えるようになった。

ユニセフの情報によると、実際に井戸を作ってから一ヶ月たったマダガスカルの小さな村では多くのことが変わった。一番の変化は子供達がげりや腹つうを起こさなくなったこと。また、遠くまで水をくみに行っていた子供達が水をくむ必要がなくなったため、学校に通えるようになったらしい。これにより井戸を中心として、村の衛生を改善しようと立ち上がったことも大きな変化だ。

私は今回この作文を書くことで、水について考え、家族と話し合った。私の今できることは「水を出しっぱなしにしない」、「お風呂の残り湯を洗たくなどに使う」、そして最も私が重要だと思うことは「水に感謝をする」ということだ。そして、ユニセフの募金箱を見つけたら自分のできることをしていきたい。

「水」の大切さを一人一人が感じることができれば、全世界できれいな水を飲めるような未来が訪れるのではないだろうか。きれいで安全な水を世界中の人々が飲むことができる未来がくることを私は心から願っている。

優秀賞

【水という限りある資源】

栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校

一年

露久保

羽南

水は命の源であるのに、安全な水が世界中に届いていない、水不足で苦しんでいる人がいるというのが現状だ。私は、この現状を変えるために必要なのは私たちの取り組みだと思う。

当たり前のことだが、水がないと人間は生きていけない。日本は蛇口をひねれば安全な水、そのまま飲める水道水が出てくるけれども、世界でこれが当たり前なのは、日本を含め、約十ヶ国。世界は安全な水道水が届いていない国、地域であふれている。その中の国のひとつにサハラ以南のアフリカ諸国がある。ここでは池や川、湖、整備をされていらない井戸などから水を汲んでいる。水汲みは子供たちの仕事で、水の重さに耐えながら、生きるために毎日長い道のりを歩き続けている。そんな子供たちには、学校に通う体力、時間も残されていない。ここまでして水汲みをしているというのに、その水は汚れた、危険な水だ。浄水処理をしないまま飲むと、抵抗力の弱い子供たちは下痢をおこし、命を落とす場合もある。水不足で体や環境の清潔を保てなくなり、子供がさまざまな病気に感染していく。水不足が引き起こす問題は、数えきれないほどある。同じ地球上で暮らしているのに、私たちと同じ子供なのに、日本とこれだけ違う。この不平等をなくすために必要なのは、先進国の支援だ。日本でもすでに多くの支援を行っているが、今のアフリカなどの現状が、支援がまだ足りていないことを物語っている。私たち子供にだってできることはある。例えば、ユニセフは二〇三〇年までに世界中のすべての子供が身近な場所できれいな水が使えるようになることを目指した支援を行っている。ここに私たちが募金することで、苦しむ人たちへ浄水剤や子供の命を守る薬などを届けることができる。ひとりでも多くの人の命が救われるよう、進んで支援に参加したい。

また、蛇口をひねるときれいな水道水が出てくるといっても、使い

放題になつてはいけない。当然水は無限にあるわけではなく、量に限りがある。それなのに私は、水が無限にあると思っているかのようには、無駄づかいをしようと思わなかった。例えば、シャワーを使っているときに、「いちいち止めるのが面倒くさいから」「少しの間だから」といったささいな理由で、シャワーを出しっぱなしにしてしまっていた。洗い物を手伝っているときも、同じささいな理由で水を出しっぱなしにしてしまっていた。私が「少しだけなら」と思って無駄にしてしまった水は、世界で多くの人々が切実に欲している貴重な水だということに、今回気づくことができた。これからは、水を無駄にしないうような行動をとりたい。そのため、浴槽の残り湯を洗濯に再利用したり、顔を洗うときは洗顔器を使ったり、家でできることに取り組みたい。

今回水について考えて、水に困っている人が多くいることを知った。今私たちが水が無駄づかいしないことが重要だと思う。世界中の人がきれいな水が使えるようになる時代に少しでも近づけるよう、水を大切に過ごしたい。

日本水道協会栃木県支部長賞

【世界の水問題】 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校 一年 小野 一樹

私は中学校に入学してサッカー部に入部した。最近はとても暑いだめ、熱中症に気を付けて水分補給を欠かさなかった。部活中の暑い中で飲む水は、非常に新鮮に感じた。私は部活が始まる前までは、あまり暑い中運動することがなかった。そのため、部活が始まり水の大切さ、おいしさがよく分かった。しかし、その「水」は悲惨な現実を生み出す。私は以前、社会の授業で汚い水を飲んでいる外国の子どもの写真を見た。そこで私が注目したのは、安全な水（浄化されていて、飲んでも問題がない水）が手に入らない人々についてだ。安全な水が手に入らない人は世界に約六億六千三百万人もいる。私はその数を聞きとても驚いた。いつもきれいな水を飲み、蛇口をひねればきれいな水が出てくる生活に慣れてしまっていたからだ。また、一年間で汚い水の影響で亡くなってしまいう子どもは約三十万人いる。

水を飲んで亡くなってしまいう人だけでなく、水を汲む時間も問題になっている。世界中の女性が水汲みに費やす時間の合計は一日で二億時間だ。そのため、子どもは学校に行き、教育を受ける時間はないだろう。そこで私はユニセフのあるページで、エチオピアの十三歳の少女の一日を見た。その少女は朝の六時三十分に出発して水を汲みにいく。そして四時間かけて池へ行き、また四時間かけて家につく。つまり、水汲みに費やす時間の合計は八時間だ。しかし得られる水はわずか五リットルで、茶色く濁っている。私は見えていて心が痛んだ。私と同じ歳で毎日八時間も歩き続けるのは体力もメンタルも辛い。私の目の前にはいつも水があり、水に困ったことなど一切なかった。そう考えると、私は大変恵まれていることも痛感した。

私は汚い水についても一つ考えることがある。それは世界で問題になっている水質汚染についてだ。しかし、私は実際には川や海が汚れても自分たちへの影響はあまりないと思っていた。調べてみると、

水道水が飲めなくなったり、海産物が食べられなくなったりするそう。また、過去には水質汚染が原因で公害が発生したこともある。そこで私は家でも出来る対策を二つしてみようと思った。一つ目は、食べ残しをしないということだ。水質汚染とは関係ないように思えるが、生活排水から出る油やマヨネーズなどは、とても水質を悪くする。食べ残しをしないということなら家でも簡単にできそう。二つ目はシャンプーや洗剤を使い過ぎないということだ。シャンプーや洗剤も水質に悪影響を与える。シャンプーや洗剤は量に気をつけて使用したい。私は「水」を通して、世界にはたくさん水の生活の問題があり、自分が非常に恵まれていることが分かった。水は私たちの生活に欠かせないものだが、その水で命をうばわれる人がいる。私からすれば水を飲んで命を落とすということはとても考え難いが、非常に悲しい気持ちになる。そのため、汚い水に困っている人たちへ募金や支援をして、少しでも助けになるようなことをしたい。最後に、「蛇口をひねれば水」、「身の回りの水はすき通った水」、「おいしくて安全な水」というのは恵まれていて、当たり前ではない。「上を目標に、下を見て暮らす。」この言葉は、私が小学六年生のころの担任の先生から聞いた言葉だ。この言葉を心に刻み、毎日の恵まれた生活に感謝していきたい。

国土交通省鬼怒川ダム統合管理事務所長賞

【「我が家の水の週間」】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 二年

矢部

寛瑛 ひろあき

蛇口をひねると勢いよく流れ出てくる水。川のせせらぎも疲れた人の心を休ませてくれ気持ちいい。流れる水は、私たちに心安らぐ普通の光景だ。近所の「尚仁沢湧水」は、塩谷町のシンボルである高原山の中腹に位置し、付近一帯は樹齢数百年にも及ぶ原生林に覆われている。十数力所から湧き出る湧水は、清らかで澄んでいる。水面はまるで水晶のようだ。たまに家族で行き、そこで飲む水は、身体中に生気を与えてくれる。また、清流として知られる荒川の源流は、尚仁沢湧水を始め、高原山中から湧き出す幾筋もの清らかな流れに端を発している。素晴らしい自然が息づいていて、この自然を壊す行為は絶対にはいけないと強く思う。

水は、私たちの生活にとって必要不可欠な存在である。私たちの身の回りにあるものは、大量の水を使って作られている。僕が毎日制服のYシャツの下にきている白い綿Tシャツについて調べてみた。綿は全農作物の中でも最も多くの水が必要とする作物だ。Tシャツ一枚作るだけで、二七〇〇リットルもの水が使われている。つまり、一日の平均飲料水を一人あたり約一・五リットルとすると約五年分の水が使われていることになる。そして世界では、一年間に約二十億枚ものTシャツが作られていると言う。とはいえ、Tシャツが二七〇〇kgの重さがあるわけではないし、農業で使った水はどこかで循環してまた戻ってくるのではないかと単純に考えてしまう。しかし、例えば綿花の耕地面積が世界一のインドでは主要二大都市の地下水源が枯渇する。一方、上水道の七〇パーセントが汚染され毎年推定約二〇万人が死亡しているという。綿が世界で最も殺虫剤を使う農作物であることが関係している。さらに、そのTシャツに色をつけたり、プリントを施したりすると、更に大量の水が必要となり、これらの工程で世界の汚染水の二十パーセントを排出してしまっている。だんだんと調べていく

うちに、僕は、毎日自分が何気なしに着ているもので、大量の水が使われ愕然とした。また全く見えないところで人の命を奪い、漂白剤を川に流して、犠牲を生み出していることを知り、非常に心が痛んだ。物心ついた時から水道の蛇口をひねれば水が出るのが当たり前なのは、恵まれすぎていて、もつと真剣に水への危機感を持ち、日々生活しなければいけないと強く感じた。

そこで、夏休み中の八月一日は「水の日」ということもあり、水があるのが当たり前と思うのではなく、豊かに不自由なく暮らせているのは何のおかげか、自分達ができることは何か、家族で水の大切さを再確認し、各々ができることを意識し実行することにした。僕は二つのことを実行することにした。少し外を歩いた後や、家で勉強やゲームをしている時、少しでも身体がべたべたして気持ち悪くなると、すぐ水シャワーをジャージャー流して頻繁に身体を冷やしていた。大量の水を無駄にしているので、霧吹きを使ってさっとタオルで汗を拭く、または、ぬらしたタオルで身体を拭くことに変更した。手軽な上、案外さっぱりすることを発見した。また、お風呂に入る際、温泉の素や入浴剤を入れてゆつくりのんびり湯船に入るのが好きなので、毎日使っていた。洗濯に使用しても大丈夫な入浴剤が多い。しかし、入浴剤と洗剤との相性によって使えない場合があり、今まで洗濯にお風呂の残り湯を使用できないことが多々あった。節水のために、水の週間は入浴剤等を使用せず、洗濯に残り湯を使えるようにした。入浴剤がなくとも、湯船にゆつくりつかること、十分リラククスできた。

実際に実践し、身近なところからでも取り組むこと、そのして、その意識を常に持ち続けることが必要だと僕は思った。

水資源機構思川開発建設所長賞

【水と私たちのくらし】

栃木県

宇都宮市立晃陽中学校

二年

高橋

千遥

あなたは、日本の水問題について知っていますか。日本に住んでいる私たちは、清潔な水を蛇口をひねれば飲めますし、買うこともできません。しかし、そんな日本にも水問題はあります。

まず、日本の水資源の現状はどうなっているのでしょうか。日本は海に囲まれた島国であり、河川も多いため、水に恵まれた国といえます。また、年間降水量も多いため、水の確保は容易です。ですが、河川の流量が一年を通して変動が大きいことや、雨がよく降る時期と降らない時期の差が激しいこともあり、安定的な水の確保は難しい環境にあります。

次に、水はどんな用途で使われているのでしょうか。水は大きく分けて三つの用途で使われています。一つめは生活用水で、家庭や飲食店などで使われています。地震など自然災害の教訓もあり、節水を心掛ける機会が増えたことにより、使用量は一九九八年ごろから減少傾向にあります。二つめは工業用水です。製造業など産業活動に使われ、水を再利用することが多いので、生活用水と使用量はあまり変わりません。三つめは農業用水です。畜産やかんがい等で使われ、日本の水使用量の大半を占めています。

では、水に恵まれた国、日本にはどのような水問題があるのでしょうか。それは、「渇水」です。渇水は毎年、すべての都道府県で発生しています。それにより、水道水の断水や、農作物の成長不良など、様々な被害が発生し、時にはさらに深刻な影響を与えます。渇水が起る原因は、季節に応じた雨や雪が降らないことや、降った雨がすぐに海へ流れてしまうことなどがあるそうです。

そんな渇水に、日本はどんな取り組みを行っているのでしょうか。国土交通省によると、安定した水の供給のために、ダムの建設や、人

工降雨、降雪などにも取り組んでいるそうです。他にも、渇水時の被害を抑えるための水利用の調査や、水のリサイクルや雨水の有効利用など、さまざまな取り組みが各地で行われているそうです。また、日本の企業が、海水を淡水化できるろ過装置の研究なども行っている。

日本で、いろいろな対策がされている水問題。そんな大きな問題に、私たちができることはない、と思っていますか。水問題について、私たちもできる身近な方法は、「節水」です。渇水や、今後起きるかもしれない水不足の緩和のために、節水は大切です。歯磨きや洗顔の途中、こまめに蛇口をしめるなど、シンプルなことですが、充分に意味のあることです。

最後に、私は最近まで日本に水問題があることを知りませんでした。知った時、最初はあまり何も思いませんでしたが、調べるにつれて、日本がいつ、渇水になってもおかしくはない、という事実に怖いと思いました。もしもの時のために、節水など簡単なことから始めて、少しでも日本の水不足問題について取り組めたらいいな、と思いました。

栃木県企業局長賞

【水が与える影響】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校

二年

小高 仁南

私は「水」と聞くと、二種類の水を想像します。一つ目は、私たちの命を救う水です。私たち人間や、私たちの身の回りにいる生き物が生きるためには水が必要です。

私は、水道を利用することによって水を得ることが多いです。お風呂、トイレ、炊事、洗濯、掃除など、様々な場面で水道水を使っています。日本の水道水の多くはきれいで安全だから、毎日安心して使うことができます。

しかし、世界には水道からきれいで安全な水を得られない国もあります。私は、小学生のときに祖父の家を訪れに海外へ行きました。そこでは水道水を飲まずに、ミネラルウォーターを飲んでいました。その国では水道インフラがあまり整っていないため、水道水が安全ではなかったからです。私は普段、水道水を飲んでいたので、水道水を飲めないことに不便さを感じました。

このような経験を通して、水道水はきれいで安全であることが当たり前だと思っていたが、全ての国がそうである訳ではないことを知りました。また、水道水そのまま飲めることはありがたいことだと気づきました。私は、このありがたい環境に感謝し、水を大切に使うべきだと思えます。そのための取り組みとして、洗濯のときにお風呂の残り湯を使用する、使用後の食器や調理器具の汚れをふき取ってから洗う、節水シャワーヘッドにする、洗濯物はまとめて洗う、手洗い、洗顔、歯磨きなどをする際に水を流しっぱなしにしないなどの工夫ができると思います。私は今まで、歯磨きをする際に水を流しっぱなしにしていることが多かったから、気を付けていきたいと思えました。水を大切にするためには、みんなが節水に取り組む必要があるから、節水を心がけられる人がもっと増えたいと思います。

二つ目は、水害として私たちを襲う水です。洪水、高潮、土砂崩れ

など、様々な水害があります。

日本の国土には、急峻な地形のため、河川が急であるという特徴があります。そのため、洪水などによる災害が起こりやすくなっています。また、日本は地震が発生しやすいため津波による被害も多いです。このように、水は、私たちを救うことも襲うこともあり、私たちに様々な影響を与えています。

水は、私たちを襲うことがありますが、私たちの生活になくはないものです。日本では、水不足で困ることがほとんどありませんが、海外には、水不足が問題となっている地域もあります。だから、水を不自由なく使用できる環境に感謝し、水を大切にするために、節水などの取り組みを行っていききたいと思いました。また、水不足が問題となっている地域で、貢献活動ができると良いと思いました。

水不足の地域では、川で排泄をしたり、洗濯をしたりしています。そして、川の水を飲み水として使っているため、命を落としてしまう人がたくさんいます。水不足が原因で、命を落としてしまう人がたくさんいることを知って、自分にできることはないかと考えました。そこで、日本は水不足の地域に対してどのような活動を行っているのかを調べました。

日本には、水不足の地域で貢献活動を行っている企業があることが調べてわかりました。水不足の地域に日本の水道技術を伝えたり、水道や浄水場などの施設を作ったりしているそうです。私も将来、そのような活動に協力したり、募金したりしていきたいと思えます。

栃木県道路河川愛護連合会長賞

【水のありがたさ】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校

二年

河野 優愛

水は、地球上で最も大切な資源の一つです。私たちの生活に欠かせない水は、自然界の中で形を変えながら様々な場所で存在し、私たちの健康や生活を支えています。この作文では、水の大切さや循環、節約方法、私たちに出来ることなどについて考えていきます。

まず、水の大切さについて考えてみましょう。私たちの体は約四十パーセントが水で出来ており、水は私たちの体温を調整したり、栄養を運んだり、代謝をサポートしたりする重要な役割を果たしています。体の中にある水分が減少していくことで、食欲不振や皮膚の紅潮、頭痛、けいれんなど体に不調をもたらします。最悪の場合は生命を脅かすほどの危険もあることから、水分がどれほど人間の体に必要なものなのかがわかります。また、家庭で一人が一日に使う水の量は平均二百四リットル程度といわれています。主に、トイレ、洗濯、お風呂、炊事などがあります。様々な場面で使用する水が使用できなくなってしまうときには、私たちの生活に大きな支障が出ることでしょう。また、飲料水としての役割だけでなく、農業や工業、エネルギー生産など、様々な分野で水は活躍しています。

水は地球上で循環しています。海や湖、川などの水が太陽の熱によって蒸発し、水蒸気となって大気中に上昇します。そして、冷えて雲となり、雨や雪として地上に戻ります。この循環を「水循環」といい、自然界のバランスを保つ重要な仕組みです。しかし、地球温暖化などの影響で水循環が乱れることがあり、水不足や災害のリスクが増大しています。温暖化による災害などの例を挙げると次のようなものがあります。異常少雨や降水量の変動幅の増大などの影響によって、渇水や洪水のリスクが高まる可能性や、新たな課題の発見が発生することも懸念されています。

水を大切に使うことは、地球環境や未来のためにも重要です。まず、

日常生活での水の使い方に気を付けることが大切です。歯を磨く時や手を洗う時、食器を洗う時に水を流し続けるのではなく、必要な分だけ使うように心掛けましょう。また、シャワーやお風呂の時間も意識して短くすることで、無駄な水の使用を減らすことができます。節水に取り組むことで、一日に使用する水の量を二百リットルに抑えることができます。

さらに、農業や工業の分野でも水の節約が求められています。効率的な灌漑や生産プロセスの見直しによって、水の使用量を減らす取り組みが行われています。私たちが使用する商品や食べ物にも、どれだけの水が使われているかを考えることが大切だと考えます。

地球上の水は限られており、水不足が深刻化する国や地域もあります。特に砂漠地帯や人口の増加が激しい都市部では、水の供給に課題があります。また、世界の人口の約四十パーセントの人々が水不足に悩んでいます。水不足が深刻化することで、体調を崩してしまったり、命を落としてしまったりしている人もいます。このような国や地域では、水の有効活用や水源の保護が重要です。また、地球全体で持続可能な水の管理に取り組むことが求められています。

水は私たちの生活を支える大切な資源です。私たちはその大切さを理解し、無駄遣いをせず、水を大切にすることが求められていると思います。自然の水循環や水の管理についても学び地球環境を守る一翼を担うことが、未来のためにできる貢献です。今の私たちができることは、家庭や学校などの節水に協力することだと思っています。手を洗う時や歯を磨くときの小さな努力がたくさん集まれば大きな力になっていきます。この世の中では水不足によって、苦しむ人もいます。私たちの意識と行動が、地球上の水資源の保護と自持可能な未来を築く大きな力となるでしょう。

土地改良事業団体連合会長賞

【田んぼの水はどこから】

栃木県

佐野日本大学中等教育学校

二年

石森 諒

私は、六月に学校行事で新潟県を訪れました。この行事は、農村と漁村に分かれて様々な活動を体験するというものです。私は、農村体験に参加しました。農村では、田植えや草木染めなどの田舎体験をしました。一番心に残ったことは、田植えです。初めて田んぼに入った時は、なんだか不快な感触を覚えました。だんだん慣れてくると気持ちがよくなってきました。その時、田んぼには自分が思ったよりもたくさん水が入っているなと気づきました。

田植えを行う時、地元の稲作農家の方が、稲作について説明してくれました。まず、稲作の始まりは春です。春になると水田に水が張られます。この水を「田植え水」といいます。その後、田植えが行われます。農家の人々が稲の苗を一本ずつ植えるのです。この作業はとても大変ですが、水がないとお米を育てることはできません。次に、稲は水をたくさん吸収するため、水が必要になります。そして、水田には、水がしっかりと張られている状態が最適です。稲は水不足になると、栄養を吸収することができません。そのため、農家の人々は、水田に十分な水を入れて稲を育てています。そして夏になると、稲がぐんぐん成長していきます。稲の穂は、太陽の光をたくさん浴びることです。しっかりと成長するのです。また、水田の水は太陽によって蒸発し、雨や川からの水で補充されます。このサイクルが稲の成長を助けるのです。最後に、秋がやってきます。稲穂が実る頃です。農家の人々はお米が十分に実るように気を配ります。そして、夏から秋にかけての水やりの控え、お米に栄養を与えます。これを聞いて、稲の成長には水が必要不可欠なのだと思います。

また、地元の方たちは、「稲作では、水を管理することがとても重要で、水をたくさん使いすぎると、水が不足してしまい、稲が育ちません。逆に、水を少なくすると稲が枯れてしまうこともあります。水

の量を適切に調整することが、豊かな稲作をするためのポイントです」ともお話してくれました。農家の方は、一人で十五面ほどの田を持つているので、その水の管理をするのはとても大変なことだと思います。

私は田植えをしている時に、こんなにたくさん水はどこからくるのだろうかという疑問を持ちました。調べてみると、まずダムで貯められた水が川を下って頭首工という、川の水をせきとめて田んぼなどに使う必要量の水を取り入れる施設で、水の量を調整します。その後、大きめの用水路に水が流れます。そして、小さい用水路に水が送られて田んぼに行き渡ります。使われた水は、排水機場に送られて、ポンプによって吐き出されます。こんなに、たくさん過程を経て、水がたどり着くことにびっくりしました。

もう一つ思ったことは、田んぼの中にいた生き物たちのことです。田んぼの水の中には、たくさん生物が生きています。私も田植えをしている時に、足にアメーバがついてかゆくなりました。たくさん生き物たちが水を求めてやってきます。例えばカエルやトンボ、魚たちです。田んぼには、生き物たちが喜ぶような元気な水を貯めておく必要があると思いました。しかし、農家の方たちは、その動物たちや病気などのせいで稲が弱ってしまった時は、農薬をまかざるを得ないとも言っていました。その言葉に、農家の方々の、なるべく農薬を使わないで稲を育てたいという思いがとても伝わりました。田植えが終わってから眺めた田んぼは、本当に美しいなと感じました。今回、私は、田植え体験を通して、水の大切さを知ることができました。

一般財団法人栃木県環境技術協会理事長賞

【水の使い方】

栃木県 宇都宮市立東高等学校附属中学校 一年 齋藤 悠真

水道水がこんなに美味しいなんて衝撃的でした。静岡の祖母の家で飲んだ水道水が冷たくて、なめらかだったのです。

アメリカで育った私は、水道水を飲むという感覚がありませんでした。過んでいたテキサス州のオースティンの水道水はコロラド州から引いており、トラビス湖で貯水しています。その水は硬水で、コケのようなかおりがしました。

アメリカで水に関する大変な体験が二つありました。

一つ目は、二〇一八年に激しい豪雨が降り続いたことによりラノ川洪水したときです。この水がトラビス湖に流れ込み、水の温度が上がりを水を沸騰させてから使用する注意ができました。これにより野菜を洗えなかったり歯磨きで口をすすぐときにペットボトルの水を使わなないとだめになりました。今まで水をあたりまえのように使っていました。使えなくなったことにより水のありがたみがわかりました。

二つ目は、テキサス州に大寒波が来たときです。この寒波は百年に一度ほどの大きさでした。私たちの家の水道管は破裂しませんでした。が、断水してしまい水がほとんど流れませんでした。さらに道路に雪が積もり、凍っていたためスノーパーにペットボトルを買えませんでした。だから、水をとんでも大事に使いました。ここで再び水の大切さを知ることになった私は、より水を気軽に使えることを感謝するようになりました。また、水のない地球の人々の苦勞を想像することができました。

日本に来てきて気付いたことは水がとても豊富なことです。時間制限なく水まきしたり、毎日湯船に浸かってても水道代が高くなるということ。テキサス州では、庭のスプリンクラーを回す際に曜日と時間に制限があったり、少しでも水を使いすぎると水道代がびっくりするほど高くなります。

なぜ日本はこれほど水を豊富に使えるのでしょうか。

その理由は降水量と島国であることに関係するそうです。日本はユーラシア大陸の東に位置しているため偏西風の影響が弱いのです。そのためモンスーンの影響が強くて年間降水量が世界平均の約二倍であるそうです。また日本は島国であるため、隣国と水を巡り争いが無いため水が豊富なそうです。これらの理由で日本は水を当たり前のように使っているのです。このようにきれいな水を保ち使い続けるにはこれからできることがあると思います。

それは、お風呂を気を付けることです。平成二十四年の調査によると家庭での水の使われ方の四十パーセントがお風呂らしいです。つまり、シャワーをこまめに開け閉めしたり、お湯を沸かしすぎなかったりすることで、使う水の量は減らしていけます。

これに注意することで今の日本のきれいな水を保てていけると思っています。こうすれば祖母の家のあのきんきんでやわらかい水を何十年後も飲み続けたいと思います。

一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団理事長賞

【「水不足をなくすために」】 栃木県立矢板東高等学校附属中学校 二年 東 紗来瑛

水に関する作文に取り組んでみようと考えたことをきっかけにして、今水にどのような問題があるのかを調べてみた。私たちは毎日不自由なく水をつかえている。けれども世界人口の七十八億人中、四十パーセントにあたる三十六億人が水不足に悩まされているそうである。また、水不足は今後も悪化すると考えられており、この状況が続けば、四人に一人は慢性的な水不足の影響を受けると予測される。水不足が進み、水が枯渇してしまうと多くの生物も影響を受け、絶滅する種もでてくる可能性もある。二千十六年、アメリカでは、急性の下痢などを引き起こすコレラが五年ぶりに流行し、多くの死者をだした。この出来事から、世界にはその水が危険だと分かっているにもかかわらず飲まなければいけない人がいる、ということが分かった。

他にも水不足になると、国同士の紛争が起こる場合もある。実際、水資源配分や水質汚濁、水の所有権、水資源開発などの問題で過去に紛争を引き起こした国もあった。

そこで、水不足の原因を調べてみたところ四つのがあげられた。一つ目は、人口の増加である。二つ目は、産業の発展だ。産業が発展することにより生活水準が向上し、必要な水の量が増えているためだと思われる。さらに、工場や家庭からでた汚れた水が川や海、地下水を汚染していることがあげられる。三つ目は、気候変動である。これは、地球温暖化によるもので、気候変動により、雨の頻度や強さが変化してきている。そのため、雨が降らない日が連続し、さばく化が進行している。さばく化が進むと森林が減り、さらに二酸化炭素が増え、さらなる地球温暖化につながる悪循環がおきる。四つ目は開発による水源破壊だ。

そこで、これらの原因を防ぐ方法を考えたり、調べたりしてみた。まず、人口増加について考えてみた。貧しい国では、産業が産業が単

純で、子供をつくるほど戦力(働き子)になるため、発展して国が豊かになれば子供に高度な教育を受けさせる必要がでてくるため、少子化が進むのではないかと考えた。つまり、技術や産業を貧しい国で育てることで、人口の伸びがおだやかになるのではないかと考えた。次に、産業の発展について考える。工場においては、水を節約するよう新たな技術の開発がのぞまれる。また、家庭においては一人一人が水を大切にすることが重要である。産業が発展して人口増加が抑制されたとしても、一人一人がぜいたくに水を使ったり、工場で大量の水を消費しては意味がないからだ。次は、気候変動について考えた。地球温暖化は、二酸化炭素の増加によって起こる。そのため、再生可能エネルギーを積極的につかうことが大切だと考える。また、二酸化炭素の増加は、森林破壊によっても起こる。それを防ぐには、紙の使用を減らしたり、たばこやたき火が原因の山火事を防いだり、森林保全活動を実施することが重要である。また、さばく化については、さばくを森林にすることが最善であると考えた。

人口の増加、産業の発展、気候変動やさばく化など、一概に水不足といっても様々な原因があることが分かった。水不足がすすむと、国家的な紛争につながる場合がある、ということが理解できた。私も水の節約などをし、水不足の防止に貢献したいと感じた。また、水不足に関するポスターや、この作文などを多くの人に見てもらい、水不足の現状を知ってもらいたいと考えた。そして、少しでも多くの人が水を大切につかう努力をしてほしいと心の底から思う。将来は、夢である医療機器の開発者となり、使用電力の小さい医療機器を作ることによって、地球温暖化の抑制に貢献したいと感じた。

公益財団法人とちぎ建設技術センター理事長賞

【大切な水を守るために】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 森田 宇美

私たちは、ふだんの生活にたくさんのお水を使っている。飲み水、料理、選択、お風呂、トイレなど。日本では、蛇口をひねるだけで水が出てくるため、必要以上に水を使ってしまうのかもしれない。一人が一日に使う水の量は、二〇〇〜三〇〇リットルにもなる。世界でも、この量は多い方ではないだろうか。

世界には、過酷な水問題があると聞いたので、調べてみると、自分が思っていたより大変な状況だということがわかった。世界では二十億人、つまり四人に一人が安全な水を使用できずにいる。そして、そのうち一億一五〇〇万人は、湖や河川、用水路など、未処理の地表水を使用しているそうだ。未処理の水というのは、不衛生で汚い水のこととも含まれている。水問題が過酷なアフリカなどは水汲みが子どもの仕事だ。そして、家のすぐ近くに井戸や川など、水がないため、時間がなくなってしまう。ようやく手に入れた水でも、その多くは泥や雑菌、動物のふん尿などが混じった危険な水である。その水をそのまま飲んでしまうと、下痢を起してしまう。それが原因で命を落とす子どもは、年間30万人、毎日八〇〇人以上にもぼっている。また、体や生活環境を清潔に保てなくなると、子どもたちは肺炎など、さまざまな病気に感染しやすくなる。子どもたちの命を守るためにも、安全な水はとても貴重なものだ。私たちにっては当たり前前の水も、他国にとってはとても貴重なものなのだ。アフリカの子どもたちの多くは、学校に行けず勉強もできない。なぜなら、近くに水がないからだ。水を汲みに行くだけで、八時間もかかる子どももいる。そんな子どもたちを助けるためにしていることはないのか、調べてみた。ワールド・ビジョンという国際NGOでは、浄化槽やタンクなどの設備支援、住民組織の立ち上げ支援、そして、きれいな水の大切さを広める活動などを行っている。浄化槽やタンクがあれば、きれいな水をつくること

ができ、また住民による「ごみ衛生管理委員会」をつくり、トイレの設置や清掃方法を教えたりもしている。手の洗い方や、感染症の予防法なども伝えていこう。実際に私たちができることは何か、調べていると、日本のある企業がアジアやアフリカなどの水不足の地域で貢献活動をしていることを知った。日本の水道技術をそれらの地域に伝え、水道や浄水場などの施設を作っているそうだ。それにより、一日何千万トンものきれいな水を作り出し、生活用水や飲料水として使われている。日本の支援によって人々の命が救われたと思うと、とても喜ばしい。このまま支援を続けられれば、子どもたちが勉強をできるようになるのも、そう遠くないのではないかと、思う。

世界だけでなく日本にも水問題はあります。一つ目は、豪雨による自然災害だ。最近だと台風七号による豪雨で、鳥取県や兵庫県など多くの県が被害を受けている。主に冠水の被害が出ており、とても大変そうだった。二つ目は、水不足だ。日本でも、水不足になっているところもある。雨が降らなくなることにより、ダムの水がなくなってしまうことが原因だ。水不足の地域は、今後水を使うことを制限するようになるかもしれない、と話していた。

私が水問題について調べて、世界の子どもたちが、水によって大勢亡くなっていることに、とてもおどろいた。日本では、当たり前前安全な水が、国によつてはとても貴重なものということがわかった。また、日本にも、水不足があることがわかり、水不足を防ぐためにできることを調べたところ、一つは節水を心がけること、もう一つはハードマップを確認することだ。自分でも、この二つを心がけ、調べたことを生かしていきたい。

一般社団法人栃木県建設業協会会長賞

【水を大切に】

栃木県 宇都宮市立晃陽中学校 二年 阿久津 七楓

私たちが生活している中で、水は当たり前前にあると思っっている人が多いと思います。ですが去年、水は当たり前前にはないということ、私に学ばせてくれた出来事が起こりました。

私が中学校一年生のある日に地震があり、私の住んでいる地区が停電になってしまいました。丁度、夕食の支度をしようとした矢先、断水でお米が炊けなくなり、スーパーマーケットへ夕食を買いに行こうと外に出ました。そこで私は驚きました。家々の電気は消え、街灯もつかず、見たこともない暗闇の世界に。買い物が終わって家に帰って来た時、トイレも流せないことに気付き、そこからランタンでの生活が始まりました。とても不便でしたが、いつもの日常とは遠く、少し楽しいと思う気持ちもありました。約四時間経った頃、やっと停電が復旧しました。私はその時ほっとしたのと、改めて、水はとても重要だと知らされ、水に感謝しないとないと思いました。

私は最近、「近年は水不足である。」というニュースをよく見ます。その原因は、ダムのおぼでの雨量が少なく、平年に比べても大幅に低くなっているということでした。また、その水不足の影響で農作物が枯れて、農家の人も困っているというニュースも見ました。私は、このニュースを見たとき、一人一人が水の使い方を考えることが必要だと思いました。

調べてみると、一人一日に使う家庭での水の量は、平均二一四リットル程度で、私の家族で例えると、一日に八五六リットル程度使っていることになりす。なのでまずは、一日に使う水の量を、二一四リットルより少くすること。つまり、節水を心がけることが必要だと思いました。

その節水のためにすることを調べてみました。洗まず食器洗いは、油分を布や紙でふき取り、ためた水で洗います。洗

たくでは、お風呂の残り湯を使い、「注水すぎ」から「ためすぎ」にして洗うなどの節水を心がけることが必要です。また、水は自然から作り出されている為、自然をよごしたり、こわしたりしないようにして、きれいな地球を守ることも必要です。

今まで節水を心がけてきたけど、節水の幅を広げて、今私にできることをやっていきたいです。水は限りある資源なんだということを入れて。

栃木県教育長賞

【日本の水】 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校 一年 朝倉 秀太

水は、私達の生活になくはならない、最も重要なものの一つである。飲むことはもちろん、氷などで私達の体を冷やすことに使えたり、洗濯をしたり、他にも炊事、トイレ、呉染、農業、さらには発電までできる。これらだけではなく他にもたくさんの方に使用でき、人間どころか、地球上の生物のほとんど全ての生命に関わっているという差し支えないだろう。ただ世界には、そんな水を十分に得られない国が、多く存在している。これは忘れてはいけない。

そもそも日本は、世界中の国々の中でも、清潔な水を多く得られる。そのためか、日本に住んでいる人は、水が貴重な資源であることも忘れてしまっていることが、少し多いように感じる。現に、私もそういった人の一人である。例えば、手を洗うときなどで、水を余分に使ってしまった。手を洗うため、水道をひねった後、石けんを泡立てている間、水を流し続けていることが多い。そして、水道を使用し終えた後、水道を止めずにどこかへ行ってしまうことも、まれにある。このような行為は、他の人、他の生物の使える水を減らしていると同意ではないだろうか。このような行為をしても、さほど問題ではない、というのが日本であった。

しかし、最近ではそうともいえないと私は思う。ここ最近の日本では、殺人的ともいえる猛暑や台風など、異常気象が多く発生している。そのため、各地で「水不足」が日本でも深刻になりつつあるようだ。都内を流れる川をたくわえるダムの水量が何パーセントを下回った、などのニュースも、聞いたことがある。もちろん、大多数の人にとっては大きい影響はないと思っているひともいるだろう。しかし、その考えは、正しくない面が多い。まず、この水不足によってもっとも大きな影響を受ける人は、農業や畜産業に係る仕事をしている人達だろう。水不足による凶作や発育不良を起こしてしまい、結果的に、

売り物にならなくなり、生活に困ってしまうのは、想像にたやすい。また、それによる値上がりが起こり、販売しているスーパーマーケットなどの職員も、それを扱う私達にも影響が及ぶ。だが、こういった状況で苦しいといえる私達はすぐ恵まれていると思うし、私達はそういうとらえ方もすべきだと思う。なぜなら、このような環境よりも、水という観点においては、生活しにくいと思えるような環境で、生きるために、必死に努力し、それでも届かず、命を落としてしまう人が、世界にはいるからだ。水という、私達にとってはあつて当然、清潔で当然なものが、そもそもない人がいるのに、これだけで弱音を吐くのは、ぜいたくだ。もちろん、それを理由に現実に楽観するのはなく、現実を変えようと努力する人達を尊敬し、その態度をならうことが大切なのではないか、ということである。

当然、今の私一人だけの力でどうこうなるような問題ではない。だから私は将来、そういった人を支援したいと考えている。水という、基本的なものが、誰にでも当たり前なものになる世界を、私は望む。